

## 亜急性経口投与毒性試験等におけるNOAELとADIとの比較

No.	農薬名 <sup>1)</sup>	用途	系統 <sup>2)</sup>	水濁基準 (旧) <sup>3)</sup>	評価機関	評価年月	ADI		各種毒性試験のNOAEL (mg/kg/day) <sup>6)</sup>					- を除いた最小のNOAEL ( ) <sup>7)</sup>		NOAEL/ADI <sup>8)</sup>		備考	
							値 (mg/kg/day)	設定根拠 <sup>4)</sup>	安全係数	慢毒	発がん	併合	繁殖	亜急性経口	値 (mg/kg/day)	設定根拠	との比		との比
1	ピリダリル	殺虫剤	その他		FSC	2004/1/15	0.028	ラット繁殖	100	20	4.78	3.4	2.8	4.68	4.68	亜急性経口	167	167	
2	エチプロール	殺虫剤	その他		FSC	2004/7/22	0.005	ウサギ発生	100	0.7	12.5	0.85	4.77	1.0	1.0	亜急性経口	200	200	
3	ピラクロストロビン	殺菌剤			FSC	2005/9/22	0.034	ラット慢毒 / 発がん	100	3.4	3.4	-	7.4	5.8	3.5	亜急性神経	171	103	
4	ベンチアバリカルブイソプロピ	殺菌剤			FSC	2006/11/16	0.069	ラット繁殖	100	400	13.7	9.9	6.9	10.7	10.7	亜急性経口	155	155	
5	フェンアミドン	殺菌剤			FSC	2004/12/15	0.028	ラット併合	100	100	9.5	2.83	3.9	10.4	10.4	亜急性経口	371	371	
6	オリサストロビン	殺菌剤			FSC	2005/12/8	0.052	ラット併合	100	10.8	26	5.2	10.8	6.8	6.8	亜急性経口	131	131	
7	メコナゾール	殺菌剤	ステロール生合成阻害剤		FSC	2006/4/27	0.04	ウサギ発生	100	4.29	4.2	-	8.49	4.6	4.6	亜急性経口	115	115	
8	フルフェノクスロン	殺虫剤	昆虫成長制御剤		FSC	2007/4/19	0.037	イヌ慢毒	100	3.7	21.6	-	3.8	4.0	4.0	亜急性経口	108	108	
9	プロヒドロジャクモン	植物成長調整剤	その他		FSC	2005/2/17	0.14	ラット併合	100	40	196	14.4	94.4	56.9	56.9	亜急性経口	406	406	
10	クロルピリホス	殺虫剤	有機リン系		FSC	2007/3/22	0.001	ラット慢毒 / 他 <sup>5)</sup>	100	0.1	0.7-1.1	0.1	0.1	0.01	0.01	亜急性経口	10	10	*9
11	フロニカミド	殺虫剤			FSC	2006/1/19	0.073	ラット併合	100	8	10.0	7.32	18.3	12.1	12.1	亜急性経口	166	166	
12	アゾキシストロビン	殺菌剤	メトキシアクリレート系		FSC	2006/12/21	0.18	ラット併合	100	25	37.5	18.2	31.7	10	10	亜急性経口	56	56	*10
13	ノバルロン	殺虫剤	昆虫成長制御剤		FSC	2006/10/26	0.011	ラット併合	100	10	3.6	1.1	74.2	4.2	4.2	亜急性経口	382	382	
14	フルベンジアミド	殺虫剤			FSC	2006/10/26	0.017	ラット発がん	100	1.95	1.70	-	3.30	2.58	2.58	亜急性経口	152	152	
15	シアゾファミド	殺菌剤	その他		FSC	2006/5/11	0.17	ラット併合	100	1000	985	17.1	89.2	29.5	29.5	亜急性経口	174	174	
16	ピフェントリン	殺虫剤	ピレスロイド系		FSC	2007/5/10	0.01	ラット発生	100	1.50	7.6	3.0	2.5	2.5	2.5	亜急性経口	250	250	
17	フェンヘキサミド	殺菌剤	その他		FSC	2007/6/21	0.17	イヌ慢毒	100	17.5	247	28.0	37.2	33.8	33.8	亜急性経口	199	199	
18	スピロメシフェン	殺虫剤			FSC	2007/6/28	0.022	ラット繁殖	100	6.5	3.3	-	2.2	7.7	5	発生	350	227	
19	ボスカリド	殺菌剤	酸アミド系		FSC	2006/10/26	0.044	ラット慢毒	100	4.4	4.6	-	10.1	7.6	7.6	亜急性経口	173	173	
20	クロチアニジン	殺虫剤	ネオニコチノイド系		FSC	2006/12/7	0.097	ラット併合	100	15.0	47.2	9.7	9.8	19.3	10	発生	199	103	
21	シフルメトフェン	殺虫剤	殺ダニ剤		FSC	2007/4/19	0.092	ラット繁殖	100	18.8	16.5	-	9.21	16.5	16.5	亜急性経口	179	179	
22	ピフェナゼート	殺虫剤	殺ダニ剤		FSC	2006/12/7	0.01	イヌ慢毒 / ラット併合	100	1.01	1.5	1.0	1.1	0.9	0.9	亜急性経口	90	90	*11
23	フェンブコナゾール	殺菌剤	ステロール生合成阻害剤		FSC	2007/4/26	0.03	ラット併合	100	5.2	1.28	3.03	5.8	1.3	1.3	亜急性経口	43	43	*12
24	ジメトモルフ	殺菌剤	その他		FSC	2007/4/5	0.11	ラット発がん	100	11.9	11.3	-	24.0	15.3	15.3	亜急性経口	139	139	
25	カズサホス	殺虫剤	有機リン系		FSC	2007/2/22	0.00025	ラット繁殖	100	0.02	0.072	0.045	0.025	0.01	0.01	亜急性経口	40	40	*13
26	ジノテフラン	殺虫剤	ネオニコチノイド系		FSC	2007/7/26	0.22	イヌ慢毒	100	22	345	100	147	38	38	亜急性経口	173	173	
27	イミダクロプリド	殺虫剤	ネオニコチノイド系		FSC	2007/6/14	0.057	ラット併合	100	14.8	65.6	5.7	20.1	14.0	8	発生	246	140	
28	ウニコナゾールP	植物成長調整剤	矮化剤		FSC	2007/5/31	0.016	ラット併合	100	2	27.4	1.64	11.1	2.25	2.25	亜急性経口	141	141	
29	テブコナゾール	殺菌剤	ステロール生合成阻害剤		FSC	2007/7/5	0.029	イヌ慢毒	100	2.94	18.2	5.3	21.6	8.3	3	発生	286	103	
30	トルフェンピラド	殺虫剤	その他		FSC	2007/5/31	0.0056	ラット併合	100	1	2.2	0.56	0.75	0.91	0.91	亜急性経口	163	163	
31	アミトラズ	殺虫剤	殺ダニ剤		FSC	2007/5/17	0.0025	イヌ慢毒	100	0.25	2.3	0.90	1.29	0.25	0.25	亜急性経口	100	100	
32	ジクロトホス	殺虫剤	有機リン系		FSC	2007/5/24	0.000066	ラット併合	300	0.04	-	0.02	0.1	-	0.04	亜急性神経		606	*14, *15
33	ニンドンエチル	除草剤			FSC	2007/5/24	0.01	イヌ慢毒	100	1	-	-	-	5	5	亜急性経口	500	500	*15
34	フルリドン	除草剤			FSC	2007/8/23	0.076	ラット併合	100	150	15	7.65	35.5	15	15	亜急性経口	197	197	*15
35	シメコナゾール	殺菌剤	ステロール生合成阻害剤		FSC	2007/8/23	0.0085	ラット併合	100	0.96	2.54	0.85	1.25	2.15	2.15	亜急性経口	253	253	

2007/9/10現在、食品安全委員会のホームページ ([http://www.fsc.go.jp/hyouka/hy\\_nouyaku.html](http://www.fsc.go.jp/hyouka/hy_nouyaku.html)) において評価書が公表されているものをリスト化した。

表中の各略称の意味は、以下の通り。

FSC = 食品安全委員会

慢毒 = 慢性経口投与毒性試験

発がん = 発がん性試験

併合 = 慢性経口投与毒性 / 発がん性併合試験

繁殖 = 繁殖毒性試験

発生 = 発生毒性試験 (催奇形性試験)

亜急性経口 = 亜急性経口投与毒性試験

亜急性神経 = 亜急性神経毒性試験

\*1) は評価書第2版を示す。同一の農薬について食品安全委員会において複数回評価が実施されている場合は、最新版の評価書のみを調査対象とした。

\*2) 系統は、農業ハンドブック2005年版 (改定新版) に依る。

\*3) 平成17年8月3日改正前の水質汚濁に係る農業登録保留基準が設定されている農薬を表す。

\*4) ADIの設定根拠となった試験の供試動物と試験項目を示す。ADIの設定根拠となった試験が複数ある場合は、各試験を「 / 」で区切って示す。

\*5) 「他」には、ラット併合 / 繁殖 / 発生 / 亜急性経口、マウス発生及びイヌ慢毒を含む。

\*6) 玉線の引いてある値はLOAELであることを示す。(NOAELが設定できなかったもの。) また、「-」は当該試験が実施されていないもの、又は公表資料中に当該試験のデータが記載されていないものを示す。

\*7) 各種毒性試験のうち、慢毒、発がん、併合及び繁殖を除いた試験の中で得られたNOAELのうち最小のものを示す。

\*8) NOAELが設定できなかったもの (玉線を引いたもの) については、ADIとLOAELとの比を示す。

\*9) 亜急性経口のNOAELは投与量設定の都合による見かけ上のものとされ、慢毒のNOAEL (0.1mg/kg/day) がイヌのNOAELと評価された。

\*10) イヌ亜急性経口のNOAELは投与量設定の都合による見かけ上のものとされ、慢毒のNOAEL (25mg/kg/day) がイヌのNOAELと評価された。

\*11) イヌ亜急性経口のNOAELは投与量設定の都合による見かけ上のものとされ、慢毒のNOAEL (1.01mg/kg/day) に基づきADIが設定された。

\*12) マウス発がん及びラット亜急性経口のNOAELは投与量設定の都合による見かけ上のものとされ、ラット併合のNOAEL (3.03mg/kg/day) に基づきADIが設定された。

\*13) イヌ亜急性経口のNOAELは投与量設定の都合による見かけ上のものとされ、ラット繁殖のNOAEL (0.025mg/kg/day) に基づきADIが設定された。

\*14) ラット慢性経口投与毒性 / 発がん性併合試験においてNOAELが設定できず、LOAELからADIを設定したため、安全係数を300とした。

\*15) 国内では登録、又は登録の申請がなされていないため、外国評価書のみを用いて評価した。